

第2回社会教育委員の会議での検討状況について

第2回社会教育委員の会議（令和7年11月28日開催）では、以下について協議された。

1 実地調査の結果報告・分析について

県外実地調査（新潟県糸魚川市能生地区公民館、富山県高岡市立福岡公民館）については、「実地調査に係る意見整理（参考資料1）」に意見を整理して記載。

2 報告書の構成について

諮問

ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりの推進方策について
～こどもを中心に据えた地域づくりの在り方～

はじめに

青森県生涯学習審議会会長（委員一同）の巻頭言

第1章 ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりの推進における現状

- 1 国の動向
- 2 本県の現状と課題
- 3 県教育委員会における取組

第2章 特色ある取組事例

- 1 実地調査先
- 2 特色ある取組事例
- 3 取組事例から見えてくる課題

第3章 ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりを推進するための方策

- 1 公民館等の社会教育施設におけるこどもたちの継続的な地域学習の推進について
 - （1）幼少期からの年代に応じた地域学習の進め方
 - （2）こどもたちの地域愛を育むための方策
 - （3）地域の大人たちの学び・活動の成果をこどもたちの地域学習に生かすための方策
- 2 こどもたちの主体的な地域活動の促進について
 - （1）地域の大人たちの関わりをさらに促進するための方策
 - （2）地域活動に参加しやすくするための環境づくり
- 3 地域に根付いた持続可能な取組にするための仕組みづくりについて
 - （1）行政・教育機関・企業・NPO等の役割や相互に連携・協働するための方策
 - （2）地域活動者や社会教育人財をさらに活用するための方策
 - （3）地域活動の土台となる拠点づくり

巻末資料

- ・ 諮問書（理由書）
- ・ 実地調査に係る資料
- ・ 第17期青森県生涯学習審議会委員名簿
- ・ 第37期青森県社会教育委員名簿（第17期青森県生涯学習審議会委員を兼務）
- ・ 審議の経過

2 審議事項1の内容検討について

(審議事項1) 公民館等の社会教育施設におけるこどもたちの継続的な地域学習の推進について

(1) 幼少期からの年代に応じた地域学習の進め方

〈方策に係る見出し(協議前)〉

- ・地域学習の機会(事業)づくり
- ・継続的・系統的な地域学習の展開
- ・体験を通じた学習／アウトプット型
- ・多様な主体との連携(学校との連携は不可欠)

〈社会教育委員の主な意見〉

- ・最も重要だと感じたのは、「やりたい」「面白そう」と思ったことを、いかに気軽に始められるか。
- ・思いついたことを始めやすい場所や協力者、応援してくれる存在がある環境づくりが重要だ。
- ・「継続性・系統性」については、最初に「継続してください」と言われるとハードルが高くなり、始めにくくなるのではないか。
- ・多様な主体との連携については、全くその通り。
- ・「いかに『やってみたい』ことを気軽に始められる環境を作るか」という点が、最も重要な軸になる。
- ・4つの方策は、非常に整理されていて、考えやすい構成になっている。
- ・たまたま置かれた環境の中で関わり、「楽しい」「良いものだ」と感じた経験が記憶に残り、次の行動や選択につながっていく。まずはそのような環境づくりが重要。
- ・学校や町会など、こどもたちが元々所属している環境といかに連携し、黙っていても参加するような、自然に関われる仕組みを作っていく。これを最初のベースとして置くべき。そうすることで、その先の「これをやってみたい」という主体的・発展的な活動につながっていく。
- ・実施した際に「どう叶えられたのか」「どう測るか」という評価の視点を盛り込むと良いのではないか。
- ・「測り方」や評価の設定をフローに組み込むことで、目的に対しての成果が可視化され、次のステップへ進めていけるのではないか。

〈方策に係る見出し(修正案)〉

- ・地域学習を始められる環境づくり
- ・地域学習の機会(事業)づくり
 - 〔多様な主体(学校・町会・子ども会等)との連携
体験を通じた学習／アウトプット型
他地域との交流(地元の魅力・課題の再発見)〕
- ・~~継続的・系統的な~~地域学習の展開

(2) こどもたちの地域愛を育むための方策

○ 「地域愛を育む」ことについて

地域の持続を目指し、次世代を担うこどもたちが「このまちに生まれてよかった、自分が引き継ぎたい」と思える地域を、大人たちが作ることが重要である。そのためには、こどもたちを地域みんなで愛していくことが大切である。

〈方策に係る見出し（協議前）〉

- ・機会（事業）の充実
- ・こどもを愛する大人の姿勢
- ・こどもが意見表明・自己決定・参画できる環境づくり
- ・他地域との交流（地元の魅力・課題の再発見）

〈社会教育委員の主な意見〉

- ・まず「大人が楽しく生活すること」が重要。
- ・「機会（事業）の充実」は、そうしたモデルを作る上でも非常に重要。
- ・こどもたちが、「僕もこう思う」「こうしたい」と、普段は言いづらいことでも表現できる環境をつくることは、非常に重要。
- ・まず大人自身が地域を愛する姿勢を見せることが不可欠。
- ・「こどもが意見表明・自己決定・参画できる環境づくり」については非常に重要だが、前段の「学校との連携は不可欠」という点と、少し矛盾を感じる部分がある。
- ・「他地域との交流」も大切。
- ・方策の4点については異論なく賛成。
- ・「地域を愛する大人の姿勢」が重要。こどもは大人を見て育ちますので、大人の姿は非常に重要。
- ・「地域を愛する大人の姿勢」の中に、「こどもを愛する」という要素も含まれているのではないかと。
- ・こどもを中心（主役）に置いた事業づくりや、意思表示・参画できる環境づくりを通じて、こどもが地域との関わりを「自分事」として捉えられるようにすることが重要。
- ・方策には「大人が地域を楽しんでいる姿を見せる姿勢」を入れた方がよい。
- ・「地域を楽しむ」という要素も含め、大人の姿勢についてアレンジしていきたい。

〈方策に係る見出し（修正案）〉

- ・~~こどもを愛する~~地域を愛し楽しむ大人の姿勢
- ・こどもが意見表明・自己決定・参画できる環境づくり
- ・~~こどもを主役とした~~機会（事業）の充実

(3) 地域の大人たちの学び・活動の成果をこどもたちの地域学習に生かすための方策
〈方策に係る見出し（協議前）〉

- ・大人とこどもたちが同じ目線で語り合う場の創出
- ・地域サークル、団体の方を講師にした地域学習の機会（事業）づくり
- ・公民館のハブ機能の強化
- ・学校運営協議会や町内会などの仕組みの活用

〔社会教育委員の主な意見〕

- ・「地域サークル、団体の方を講師にした地域学習の機会（事業）づくり」は具体的に考えやすい。
- ・「大人とこどもたちが同じ目線で語り合う場の創出」については、もう少し分かりやすく、具体的に記述した方が受け取りやすいのではないか。「同じ目線で語り合う場」とはどのようなものか想像してみたが、イメージしにくい。
- ・4つ目の「学校運営協議会や町内会などの仕組みの活用」については、その通りだと思うが、実際には非常に難しいだろうと感じる。実態として動けない可能性が高いと感じた。
- ・2つ目は具体例が思いつきやすい一方で、それ以外はこの先どのように書いていけばよいのか。
- ・無理やり行うことを目的にしてはいけないという感覚に近いものがある。表現の工夫が必要ではないか。
- ・「こどもたちの学び」や「活動の成果」を大人に見せることで、大人が相乗的に学ぶことも大いにあるはず。
- ・「こどもたちの視点で学んだこと」も重要であるという視点を含めても良いのではないか。
- ・4つの方策もトーンやレベルが異なっている中で並列されているため、整理が必要。
- ・「大人とこどもたちが同じ目線で語り合う場の創出」は、前述の（2）における「こどもの意見表明・自己決定・参画できる環境づくり」とも深く関わるため、これらを重ねて位置づけることも考えられる。
- ・大人は地域で様々な学習活動や地域活動を行っているが、そこにこどもをうまく巻き込み、一緒に活動することが基本になる。

〈方策に係る見出し（修正案）〉

- ・大人とこどもたちが同じ目線で共に活動し、語り合う場の創出
- ・地域サークル、団体の方を講師にした地域学習の機会（事業）づくり
- ・学校運営協議会や町内会などの仕組みの活用

~~ー公民館のハブ機能の強化~~

3 今期の答申について

第2回社会教育委員の会議において、越村会長より、以下のような提案があった。

今期の諮問は、「審議事項1」を踏まえて「審議事項2」を検討し、さらにそれらを踏まえて「審議事項3」を検討することが求められている。しかし、審議事項2及び3に関わる実地調査や議論が十分に行われていないのが現状である。

このような現状を鑑みて、拙速な議論でまとめることを避けるため、今期の会議としては、「審議事項1に係る報告（中間まとめ）」に留め、審議事項2及び3については、次期の生涯学習審議会・社会教育委員の会議に引き継いで議論していく方が、より充実した内容になる。

この提案について社会教育委員に意見を求めたところ、出席した委員全員から「特に異論はない」との回答をいただいた。